

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292500121		
法人名	有限会社 プライムライン		
事業所名	グループホームちびき		
所在地	〒039-2683 青森県上北郡東北町字大平1番地115		
自己評価作成日	令和3年11月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>季節や行事などに合わせて、館内の展示物を変化させることで入居者様に季節の移り変わりを感じていただいている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>広い敷地の中に、平屋建てで2つのユニットがホールを挟んで配置され、双方向に行き来ができる造りになっている。グループホーム内は、落ち着いた雰囲気でのデザインで清潔感があり、共有スペースは十分な採光が得られ開放的な雰囲気がある。小さな集落の中心地に位置し、コロナの感染拡大以前は、地域の保育所や小中学校と積極的な交流に取り組んでいた。また、敷地の裏では、山菜が採れるため、入居者は、敷地内を散歩したり山菜取りをするなど、日常的に戸外へ出る機会が得られている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議や申し送りの中で心掛けるように職員へ伝えている。	会社で掲げる理念とは別にグループホーム独自の理念を掲げ、玄関に掲示している。職員は出退勤の度に確認する他、管理者は会議や申し送り時に共有し、ケアにつなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供たちの訪問や行事などで交流をしていたが、コロナにより自粛している。今後、コロナ状況が緩和したら、以前のように交流を深めていく。	コロナ以前は、地域の保育園から訪問があり、お遊戯を披露してもらったり、小中学校の職業体験の受け入れや同じ敷地の事業所と合同で行う行事に地域の方を招くなど積極的な交流に努めていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト講座などへ参加していたが、コロナまん延防止のため活動への参加を控えている。状況改善後は、認知症予防教室などを通して活動していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において、現在の施設での活動状況を報告し、ご家族からの意見や相談を聞き、活動に生かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回行われている。参加者より意見や助言をもらい、それらをサービス向上へ活かすよう努めている。最近では、コロナ禍での面会方法についての助言を頂いて参考に実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域連絡会への参加や市町村担当者と連絡をとり、コロナワクチン対応や認定状況などの相談をしている。	町役場の担当者とは、運営推進会議の際に相談しており、町の保健センターの保健師などには電話などで、相談や情報交換を行うなど、双方向に連携し協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についての研修や会議の実施、委員会を設置し、ケア内容の確認などを行い、互いに職員同士で情報共有し、精神的に追い込まれないようにし防止に取り組んでいる。	グループホームで身体拘束に関わる指針を整備し、3か月ごとに会議を実施し、それらをもとに研修を行い、身体拘束をしないケアの実践に努めている。職員からも身体拘束をしないケアの工夫、方法など意見が出されグループホーム全体で取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナの影響により外部研修の機会が減っているが社内研修を実施している。また、ユニット会議で職員間でのコミュニケーションを図っている。コロナ改善後は、外部研修への機会を増やしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を実施している。今後、外部研修の機会があった場合、参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、ご家族様の集団生活へ対しての不安がないように配慮し、ご家族様からの生活へ対しての要望や相談を確認しながら、理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時や県外にいるご家族などへは電話連絡をするなどして意見や要望を確認している。	入居者からは、日常生活の中で、家族からは面会時に意見を聞くよう努めていたが、面会の制限により、現在は電話する機会を利用し聞き取りを行っている。意見や要望はその都度ユニット会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は、職員との面談の機会を設けたり、日々職員の意見を確認するなど取り組まれている。ユニット会議などを定期的実施し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	代表は、毎日グループホームへ顔を出し、気さくに職員と話をしている。そうした日常の場で意見を伝える機会がある他、管理者からも職員の意見や要望を代表に伝えている。最近では、センサーや加湿器の購入、機械浴の設置などの要望を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しや職員との面談を行い、環境整備を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を設けるなど取り組んでいたが、コロナによる影響で機会を減少している。資格取得の機会提供は実施している。今後、外部研修の機会を増やし改善していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会への参加している。外部研修会の機会はコロナでなくなっているが、今後いつものように取り組んでいきたい。また、隣接施設との研修にも参加していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談し、どのような生活がされているか。また、本人ならびにご家族の要望などの確認しながら、入居へ対する不安感を和らげるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの在宅での介護状況を確認しながら、ご家族の要望や相談を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の生活状況を把握し、本人とご家族の要望と生活に対して何が支障となっているのかを確認するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活のなかで、コミュニケーションをとりながら、本人が生活の中で何を感じているのかを把握するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスや生活を通して、本人の要望や意見を確認しながら、ご家族と共に一緒になってケアへ取り組むようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナより面会制限などもあり、以前よりは機械を減っているが交流できるように努めている。今後、コロナ改善後、交流の機会を増やしていく。	コロナ禍以前は、敷地内のデイサービスセンターを利用しての馴染みの人と交流する機会を設けたり、墓参りや行きつけの理美容院、近所の馴染みの人の畑の収穫に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係継続に向けた支援を行っていた。今後再開していく方針である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生活状況を把握しながら、トラブルにならないように職員間で話し合い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了しても、ご家族がいつでも相談できるような関係づくりや声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に日々の生活での希望などを本人に確認しながら、ご家族の協力のもと努めている。	入居者の日常の様子を観察するとともに会話の中から引き出し、意向の把握に努めている。家族から得られた本人の言葉や生活歴などの情報をもとに、思いや暮らし方の希望と意向を探りケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当のケアマネジャーや施設、入院先、家族からの情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況をケア記録や介護日誌へ記録し申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なユニット会議の開催やご家族の来所時に意見交換の時間を作っている。チームで課題を上げて、モニタリングの実施や介護計画を作成している。	毎月実施しているユニット会議において、全利用者の現状やケアプランの達成状況などを話し合い、それを計画作成担当者が集約し、電話などで確認した家族の意向も踏まえて現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録を残している。連絡ノートや介護日誌への記録、申し送りやユニット会議を行い情報共有し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人の希望により外出や外泊の機会を申しけるなどしていたが、コロナにより取り留めずにいる。今後、状況をみながら、外出の機会を増やせるように努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や町会長さんの協力により参加していたが、コロナにより中止などで参加できず。今後、コロナ状況がよくなったら、参加を進めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が以前から利用されていたかかりつけ医を利用いただいている。	2週間ごとに訪問診療を確保する他、希望により入居前から通院していた医療機関を継続して利用できるよう支援している。通院は職員が対応し、結果を家族へ報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職員へ利用者の状況を伝え、日々の体調の変化や観察状況などを情報共有し伝え対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はネットワークシートを活用し、情報提供を行っている。また、ご家族と同行受診をし、主治医との面談や病院からの看護サマリー等の情報連携をとれている。体調不良時も電話連絡を行い、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際に重度化時の対応説明を行い、同意を得ている。主治医との情報共有もおこないながら、ご家族と共に今後についてを話し合うなどしている。	入居時やその他適宜に、重度化したときのグループホームで出来ることを説明し、同意を得ている。現在看取りケアは行っていないため重度化した場合は、協力医療機関へ入院することが多い。今後、看護師の配置が予定されているためグループホームで対応できることの検討を行っていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練を実施できていない。今後、社内研修や外部研修の機会を作っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。	年2回、火災、地震、夜間の災害などを想定した訓練を行っている。消防署への報告など含め検証と相談にも応じてもらっている。現状、避難訓練は、職員のみで行われている。	コロナの感染状況を見極めたうえで、避難訓練に、地域の入居者の家族や地元の消防団などの参加をお願いするなど、地域との協力体制が構築されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の個人に合わせて、周囲に気を配るなどしてプライバシーを守りながら言葉かけに注意して対応している。	入居者の尊厳や倫理について勉強会を行い理解を深めている。日常の場面で不適切な言葉遣いなどが聞かれたときは、管理者が直接声がけし、注意を促し尊厳やプライバシーに配慮したケアの実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者とコミュニケーションを図りながら、本人の要望や希望を把握し、ご家族やチームで話し合いながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の要望などを確認しながら、支援をするように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床準備や入浴時の着替え準備の際に本人からの希望などを確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や季節に合った食材を使ったり、彩に気を付けるようにしている。また、入居者との手作りおやつなどを実施している。テーブルふきなどを行っていただいたりしている。	献立は職員がその都度、食材の在庫で決めて、調理し提供している。職員も入居者と同じものを同じ時間に食べ、家庭的な関係性が築かれている。入居者は、テーブルや茶碗拭きなどそれぞれ出来ることで参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事と水分量を確認し記録している。高血圧症やミキサー食など状態に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを実施していただくように声掛けや居室へ誘導するなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の排泄記録を行い、定期的に声掛けやトイレ誘導をするなど取り組んでいる。	排泄チェック表の活用や定期、随時の声掛けを行い、日中はトイレ誘導している。立位が不安定な方もトイレで排泄できるよう職員2人で介助するなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医からの薬処方のほか、食事面で野菜類を多く摂取できるように工夫したり、水分摂取量も記録して摂取するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入居者の希望を確認しながら、入浴の順番を確認したりしているが、業務上、基本的に入浴する曜日などを決めている。本人に声掛けし、入浴日を変更するなどしている。	入浴日は決めているが、希望で回数を増やしたり変更できる体制を整えている。リフターを設置し、立位困難な方も安全に入浴できる。入浴時間は職員と1対1で行い、大切なコミュニケーションの場になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通して、ご本人のペースをなるべく崩さないように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更など副作用は申し送りや会議などで報告している。ケアや生活において変化がないか注意するように呼びかけ伝達するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や手作りおやつなど機会をつくっている。以前のように外出の機会がコロナによりなくなってしまったが、今後は外出の機会を作れるようにしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより外出の支援を自粛している。今後、状況が改善してきたら、以前のように外出支援を増やしていきたい。	コロナ禍の自粛により、実施できない状況だが、室内でできるレクリエーションを工夫して実施している。以前は、フルーツ狩りやお花見、紅葉ドライブ、栗拾いなど日常的にも頻繁に外出の機会を作っていた。コロナが落ち着いたら以前同様に再会する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に本人の希望や状況を把握し、ご家族と話し合いながら所持していただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望やご家族からの要望があれば、やり取りが出来る状態になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内の空間を季節や行事に合わせて空間づくりに取り組んでいる。	冷暖房、加湿器を完備し、快適な空間作りに努めている。グループホーム内は、落ち着いた内装で明るく清潔感がある。入居者はホールのテーブルの気に入った席でくつろいでいる。共有スペースには、入居者の作品や季節ごとの装飾が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の状態や仲間同士でコミュニケーションをとれるように席替えなどをしたり工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものなどを使用することでこれまでの生活感を壊さないようにしている。	入居時に自宅で使っていた家具などを持ち込んで頂くようにしている。使い慣れた物を置いて生活されている。家族の写真や自身の作品などを掲示し、落ち着いて心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自分の出来ることは生活の中で実施していただくように、トイレや部屋の表記をしたりしている。		